

大温室のラン常設展示コーナーにおけるナメクジ被害防止対策 (2)

高井敦雄・梶原芳信

前号でナメクジ被害の防止として、銅板の巻き付けによる被害軽減の報告を行ったが、周辺の装飾用の観葉植物とランの花の接触等により、完全に被害を食い止めるまでには至らなかった。今回は、銅板の利用と並行して、根本的な解決手段となるナメクジの駆除を積極的に行うことで被害防止を図った。いくつかの手段を組み合わせることで、良好な成果を上げることができたので報告する。

駆除方法

1. 鉢の移動時の鉢底と元の置き場の確認

ナメクジ退治の一般的な手段であるが、移動の都度、鉢底及び元の置き場を見る習慣をつけることで、捕殺する機会が格段に増えた。

2. 被害株発見時の周囲の搜索

ナメクジの被害を受けた株があれば、被害株及びその周辺の株の鉢底を確認した。また、観葉植物の根張りを防ぐために置いている防草シートの裏やかさ上げ用に使用しているレンガの側面も確認した。防草シートが直近にあれば、鉢底やレンガの側面に潜んでいるよりも防草シートの裏に潜んでいる割合が圧倒的に多かった。意図していなかったが、結果的に防草シートを設置することで、好む場所を提供し、捕殺の機会が増加したように思われた。なお、雨天時を除き、溶岩に付いて潜んでいることはあまりなかった。

3. 被害株周辺にナメクジ駆除剤の設置

1と同じく一般的な手段であるが、2の手法で発見できなかった時は、被害株周辺に駆除剤を入れた



写真、ナメクジ駆除の様子

鉢受皿を設置した（写真）。特に雨天やかん水した日の夕方に設置すると効果が大きかった。

4. 持込株の鉢底確認

ランの入れ替えに伴う開花株を持ち込む時は鉢底を確認した。また、観葉植物等を置く場合にも鉢底を確認した。鉢底からナメクジが侵入できる形状の鉢を持ち込む場合は、鉢の中に潜んでいる可能性があるため、すぐには置かず、一晩別の場所に置き、その周囲にナメクジ駆除剤を設置した。翌朝、駆除した後あるいはナメクジがいないことを確認した後展示コーナーに置いた。

5. 花がらや枯葉の除去

ナメクジが身を隠すのに好都合な落ちた花がらや枯葉を除去し、潜みやすい場所を減らした。防草シートと違い、ナメクジの存在の有無を確認しづらい落ちた花がらや枯葉は積極的に除去した。

6. 食害部の除去

被害株を見つけ、2及び3の手段を駆使しても、捕殺できないことも多かった。しかし、毎日食害部分を除去することで、翌朝の新たな食害部分からナメクジの居場所を推定し、2と3の手段を毎日併用することで捕殺できる場合も多くあった。

まとめ

1年を通してナメクジの防除に努めてきたため、ナメクジの生息数はほぼ右肩下がりで減少してきている印象である。現在はナメクジの被害はかなり減少している。しかし、少数でも生息していれば繁殖により数の増加が予想される。そこで、最近は数少ないナメクジの居場所を確認するため、銅板の巻き付け株を意図的に減らし、許容できる範囲で被害株を作っている。そして、2と3の手段を使って、根絶を究極の目標として、さらにナメクジを減らす努力をしている。